
遠い地より

アルダーサイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遠い地より

【Nコード】
N7468S

【作者名】
アルダーサイン

【あらすじ】
記憶を失った人が、真実を思い出すだけの話

「ここは、、、」

何処だろうか…記憶が無い、いや今までのことは覚えているのだ
我が国で生まれ育ち、考古学者として研究を繰り返す日々、しっか
り覚えている

しかし何故ここに居て、ここが何処で、何をしていたのか覚えてい
ないのだ。

ここはどんな場所だ？地面は灰色だ、写真で見た月とよく似ている
大きな山脈や窪みが周りにいくつもある、クレーターであろうか
空が闇のように暗くなっているのを見る限りでは空気はとても薄い、
またはほとんど無いようだ

しかし呼吸は出来る、それもとても楽に、自分にとっては最適の環
境だ

そして太陽がとても近くにあるように見える、触れると思えるほど
に大きい、暑くは無い。

しかし家も、店も、住民も、家族もない、全てが無機質に思える
場所だ

私の他には何も無い、そう思っていたが周りをよく見渡すと植物が
いくつもあった。

丸く、根つこのようなものが伸びた植物だ。

その植物はいくつもある、どれも周りと同じように、無機質で動き
が殆ど無い

しかし意思があるようだった、と言うのも、私に語りかけてくるのだ
そしてその声を聞いた時、すべてを思い出した。

ここは私が望んだ場所なのだ、私が望んだ人生なのだ

しかしそれがどんなに恐ろしいか分からなかった…

私は考古学者として研究をした、そして知りすぎてしまった、だか
知らなすぎたのだ、、

私は精神と約束をした、協力する約束を、
私は自分自身の根っこのようなものを見て、遠くに浮かぶ青い星を
見て、絶望した。

「私の、人間の星はもう無いのだ、、」

（後書き）

初投稿です、よろしく願いします！

クトゥルフ神話を元にした超短編小説です

600字ほどでしたが、内容わかりましたか？

これはイスの大いなる種族と

何かを約束をした考古学者の話です

約束の内容や考古学者の考えについては

短く、曖昧に書いたので

皆さんがそれぞれで想像してください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7468s/>

遠い地より

2011年10月9日00時56分発行